

50km～100km走ったら 必ずトルクレンチで増し締めを！

規定トルクで締め付けを行っても、走行すると必ず緩みが発生します。タイヤを交換してから50kmから100km走行後、トルクレンチを使って、規定トルクでの増し締めを必ず実施してください（トルクレンチを保有していない場合には、最寄りの整備工場など、トルクレンチが備わっているところで実施しましょう）。

※増し締め作業を行う場合には、道路上で行うのは危険なのでやめましょう。



タイヤ交換後の注意点

50～100km走行後にはトルクレンチを使って、規定トルクでの増し締めを必ず実施

タイヤ取付けの状態 ～日常点検の実施の方法(抜粋)～

ディスク・ホイールの取付状態について、ホイール・ボルトの折損、ホイール・ナットの緩み等がないかを点検ハンマなどを使用して点検します。なお、ISO方式のホイール・ナットの緩みの点検にあつては、ホイール・ナット及びホイール・ボルトへのマーキングを施し、マーキン

グのずれを目視により確認する方法又はホイール・ナットの回転を指示するインジケータを装着し、インジケータ相互の指示のずれやインジケータ連結部の変形を目視により確認する方法に代えることができます。

ホイール・ナットの緩みを見る化へ

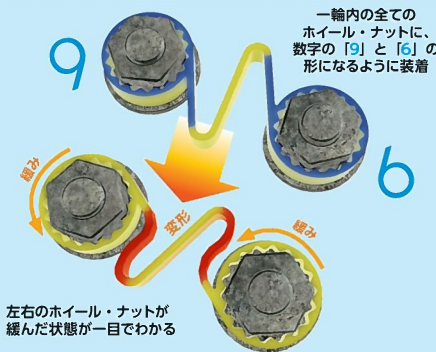
規定トルクで締め付けたホイール・ナットに「マーキング」することや「ホイールナットマーカ」を取り付けることで、走行等によりホイール・ナットが緩んだ状態を可視化できます。確実な日常点検の実施方法を社内でも徹底しましょう。

ホイール・ナットへのマーキング例



ホイールナットマーカの装着例

(ホイールナット回転指示インジケータ (ISO方式) 装着の場合)



左右のホイール・ナットが緩んだ状態が一目でわかる

「インジケータ」は大型車メーカー各社の販売店にお問合せ願います。

参考：一般社団法人日本自動車工業会資料

https://www.jama.or.jp/operation/truck-bus/wheel_fall_off/csr/index/indicator.pdf



JTA 公益社団法人 全日本トラック協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目2番5 TEL.03-3354-1009 (代)

ホームページ <https://jta.or.jp>

2022.09 57,000

ストップ!! 車輪脱落事故

重大事故
激増中



～タイヤ交換作業の手順と方法～

車輪脱落を防ぐための具体的なタイヤ交換作業の手順をご紹介します。またタイヤ交換後の増し締めや、日常点検及び定期点検の確実な実施に努め、車輪脱落事故防止の徹底をお願いします。



タイヤ交換作業の手順と方法を動画でわかりやすく公開中。ホームページでご覧ください。

ストップ!! 車輪脱落事故

タイヤ交換作業の手順と方法



https://jta.or.jp/member/anzen/datsurin_torikumi.html

JTA 公益社団法人 全日本トラック協会

手順①

ハブ面



しっかり点検

手順②

ディスク・ホイール



念入りに清掃

手順③

ホイール・ボルト



ていねいに確認

手順④

ホイール・ナット



忘れずに給脂

手順⑤

タイヤの取り付け



トルクレンチで正しい締め付け

～配布物の説明～

○飲酒運転根絶 寄せ書きポスター



※社員一丸となって飲酒運転根絶に向けて宣誓の署名行い、社内に掲示をお願いします。

○飲酒運転根絶 点呼場掲示用ポスター



※飲酒運転根絶に向けて、点呼場（ドライバーの見やすい場所）に掲示をお願いします。

○車内用添付ステッカー （飲酒運転根絶、アイドリングストップ）



※車内のドライバーが目に付く場所に添付をお願いいたします。

○車輪脱落防止 ナットマーキング用マジック&マジック消し



※別途配布しております車輪脱落事故防止チラシ（岩手運輸支局作成）を参照のうえ、ナットの緩みの早期発見による車輪脱落防止に向けてご活用下さい。

↑令和3年12月に全会員事業者へ一度配布しております。